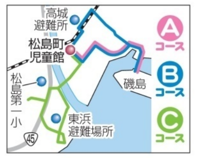
(C)河北新報社

第117回巡回ワークショップ　@宮城・松島町児童館

災害起きたら どう逃げる？

防災マップ作りで地域を探検

むすび塾


高城避難所
松島町児童館
松島第一小
磯島
東浜避難場所
45
Aコース
Bコース
Cコース

河北新報社は2日、通算117回目の防災ワークショップ「むすび塾」を宮城県松島町児童館で開いた。日本損害保険協会（損保協会、東京）の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」を取り入れ、町内の小学校1～5年生40人が地域の危険箇所を調べ、防災マップを作った。

想像巡らせ危険箇所探す

元塩釜消防本部消防長で松島町観光協会会長の志賀寧さん(71)、児童館と損保協会のスタッフが探検に同行。震災の教訓や災害への備えを学んで発信するかほく防災記者の中学生、児童館の学童保育経験者ら、町内の中高生、大学生10人も運営をサポートした。

2日は町内で町総合防災訓練が行われた。児童たちは雨の中、磯崎漁港の沖合に浮かぶ人工島「磯島」で訓練を見学するA班、津波避難ビルのJA仙台松島支店を通るB班、観光客が多い松島海岸を巡るC班に分かれて地域を探検した。

A班は移動中、避難所の案内板や公衆電話、消火栓の位置をメモし、地図に印を付けた。水路で「きけん」と書かれた看板を見て「雨が降ったら水があふれるかも」「落ちたら危ない」など話し合った。

磯島の訓練会場では、倒壊した家屋の下敷きになった人を救助する訓練に「すごい」と声を上げたり、職員によるアルファ米や保存食の説明に熱心に耳を傾けたりしていた。

B班は児童館の近くで、ふたのない側溝を発見。「冠水したら側溝の位置や道路の様子が分からなくなる。大雨の前に避難してほしい」と説明を受けた。町指定避難場所兼避難所のJA仙台松島支店では、津波避難ビルの表示を覚えた。

住宅街ではブロック塀、看板など、地震で転倒、落下の可能性があるものを次々と見つけた。大きな揺れが起きたときは、倒れそうなものから離れ、体を低くしてランドセルなどで頭を守ることを約束した。

C班は急な坂道を上り、標高約8㍍の東浜避難場所へ向かった。同行した志賀さんが「このベンチは災害時にかまどとして使える」と説明。塩釜高2年の蜂屋俐良さん(16)は、国道45号近くの堀で「雨が降るとすぐに増水して流れが速くなる。雨のときは近づかないで」と呼びかけた。

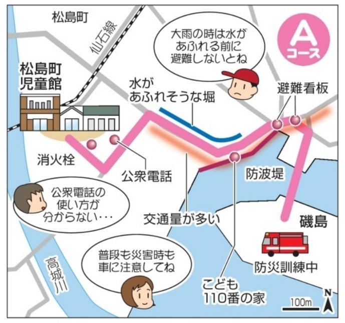
国道45号は道幅が狭く、大きなトラックが行き交う。歩道も狭く1列で歩くのがやっとだった。町指定避難場所兼避難所の松島一小体育館に続く坂を上り、海抜4・5㍍の看板と、防災倉庫の位置を確認した。道がでこぼこしていて、児童から「つまずいて転びそう」と心配する声も。

児童館に戻った後、防災マップの作成に取り組んだ。堀、崖、避難誘導看板などを記入して完成させた後、各班の代表が探検の成果を発表した。児童の保護者による炊き出しもあり、参加者は芋煮を味わった。

災害時の危険箇所を調べる児童たち
＝2日、宮城県松島町

保護者が大鍋で調理した芋煮
＝2日、宮城県松島町児童館

災害時に役立つものなどを書いた付箋を貼り、防災マップを完成させる児童たち
＝2日、宮城県松島町児童館

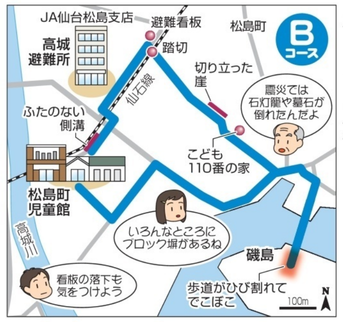

Aコース
松島町
仙石線
松島町児童館
大雨の時は水があふれる前に避難しないとね
水があふれそうな堀
避難看板
消火栓
公衆電話
防波堤
公衆電話の使い方が分からない…
交通量が多い
磯島
普段も災害時も車に注意してね
防災訓練中
こども110番の家
高城川
100m
N

松島町文化観光交流館の前に消火栓と公衆電話があり、覚えておこうと思った。途中には大雨が降ったら、水があふれるかもしれない水路があり、危ない場所だと確認した。避難所までの距離を示す看板がいろんなところにあった。逃げるときに役立てたい。

（松島二小4年　加藤旭さん　10歳）

「大雨で水あふれるかも」

（後列左から）東海林琉月さん、奥田湊さん、加藤旭さん、千葉月子さん、高橋柊吏さん、小野寺心希さん（前列左から）木村奏介さん、今野晴斗さん、北野帆高さん、松本佑愛菜さん、内海結愛さん、後田陽葵さん、赤間心春さん

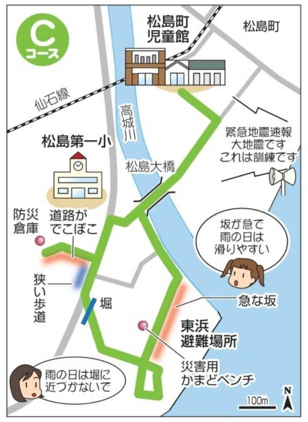

Bコース
JA仙台松島支店
避難看板
松島町
踏切
高城避難所
切り立った崖
震災では石灯籠や墓石が倒れたんだよ
仙石線
ふたのない側溝
こども110番の家
松島町児童館
いろんなところにブロック塀があるね
高城川
磯島
看板の落下も気をつけよう
歩道がひび割れてでこぼこ
100m
N

津波避難ビルの高城避難所に行った。津波が来るときに、この近くにいたら、ここに逃げる。崩れそうな崖も見つけた。雨が降ったら、通らないようにしようと思った。コースに倒れそうなブロック塀があったので、地震が起きたときは気を付けたい。

（松島二小4年　赤間陽太さん　10歳、同　鈴木くるみさん　9歳）

「津波の時は避難ビルに」

（後列左から）奥田樹さん、花井ひなたさん、赤間陽太さん、鈴木くるみさん、竹本涼七さん（前列左から）佐々木絢海さん、山本千陽さん、中野実和さん、千坂亜美さん、内海琴羽さん、五十嵐辰輝さん、朝田湊介さん


Cコース
松島町児童館
松島町
仙石線
高城川
緊急地震速報 大地震です これは訓練です
松島第一小
松島大橋
防災倉庫
道路がでこぼこ
坂が急で雨の日は滑りやすい
狭い歩道
堀
急な坂
東浜避難場所
災害用かまどベンチ
雨の日は堀に近づかないで
100m
N

雨が降っていたので、急な坂は滑りやすかったし、川も落ちたらはい上がれず流される危険があると思った。ずっと何だろうと疑問に思っていた建物は、防災倉庫だと分かった。知らないことがたくさんあったので、もっと町のことを詳しく調べたい。

（松島二小5年　東海林愛琉さん　11歳）

「急な坂 滑りやすかった」

（後列左から）遠藤怜那さん、東海林愛琉さん、峯岸みかさん、山本陽咲さん、尾形結花さん、内海榎弥さん、伊藤來愛さん（前列左から）坂部愛依さん、丹治和花さん、鈴木陽大さん、佐藤琉星さん、佐々木青馬さん、花井勇斗さん、加藤新さん、小野寺晴希さん

足で得た知識 貴重

松島町観光協会会長　志賀　寧さん(71)

雨の中、みんなよく歩いた。災害は天気や気温、時間など一切関係なく発生する。その意味でも、大変な思いをして歩いたことは、とても貴重な経験になったのではないか。

自分の住む町がどんな場所なのか、どこが危険でどこに役立つ設備、施設があるのか、災害が起きる前に知っておくことが大事だ。特に足を使って得た知識は鮮明に記憶に残る。

災害が起きたらまず、自分の身の安全を確保する。大きくなったら、その上で周囲を確認して救助活動をする。今回の経験を、命を守る行動につなげてほしい。

専門家から

積み重ねが命守る

損保協会東北支部事務局長　松代　貴志さん(55)

危ない場所、災害時に役立つものはどこにあるのかを探し、記録した経験は、子どもたちの防災意識の向上につながると思う。

今日はA班に同行したが、用水路など危なそうな場所をみんなで確認した。災害時にはブロック塀やガラス窓など危険な場所を避けることが重要だ。

学校帰りや家族と出かけたときにも今回の経験を生かして危険箇所をチェックし、自主的にマップ作りに取り組んでくれれば、その積み重ねが命を守ることにつながる。雨の中、熱心に頑張った子どもたちにお疲れさまと言いたい。

損保協会の「ぼうさい探検隊」

「ぼうさい探検隊」は日本損害保険協会（東京）の安全教育プログラムで、児童たちが地域を歩き、防災、防犯、交通安全に関する危険箇所や役に立つ施設を調べ、マップを作成する。

河北新報社は2014年から協会と連携し、探検隊のノウハウを活用したむすび塾を開催している。

損保協会は毎年、ぼうさい探検隊マップの全国コンクールを行っている。

（後列左から）田瀬ひなたさん、高橋優月さん、大宮司和実さん、佐々木結菜さん、竹本旬汰さん、飯嶋燦太さん（前列左から）蜂屋俐良さん、久保田杏華さん、田瀬そよかさん、鈴木芽依さん、鈴木成瑠さん、跡部永人さん

サポート役の中高・大学生

教訓と経験 伝えられた

自宅近くの堀は雨が降ると増水し、以前床下浸水の被害を受けたことがある。今回、C班で堀の周辺を歩いたときに、子どもたちに教訓を伝え、注意を促すことができて良かった。防災倉庫の場所など初めて知ったことも多かったので、私自身もいい経験になった。

（塩釜高2年　蜂屋俐良さん　16歳）